《本号の表紙絵》

アレクサンダー・モリソン
（Sir Alexander Morison）
『狂気の本質・原因・治療についての梗概』
（Outlines of Lectures on the Nature, Causes, and Treatment of Insanity, 1848）

アレクサンダー・モリソン (Sir Alexander Morison, 1779–1866) はイギリスの精神科医。19 世紀の前半の精神医学の形成期に活躍した医者の一人。エディンバラで生まれ、1799 年にエディンバラ大学で医学博士号を得る。開業医としての基盤を固める前に 19 歳で結婚する。スコットランドの貴族、サマヴィル卿の侍医などを経て、30 代の後半に精神医療を専門とすることを決心し、パリのエスキロールを訪れて精神医療についての見聞を広める。当時の精神医療の主流となりつつあった公立の精神病院の院長とはならずに、精神病院には訪問医として勤務する一方で、精神病院での治療を望まなかった富裕な患者の自宅ケアが彼の精神医療者としての中心であった。

1825 年に出版された『精神病についての講義の梗概』は、同年に富裕な銀行家の娘の援助を受けてエディンバラ大学に開設された精神医学講義の梗概である。1848 年までに五版を重ねた。現在モリソンを最も有名にしている『精神病の相貌学』(*Physiognomy of Mental Diseases*) の成果も取り入れられている。

この図版は 1848 年版の『梗概』の図版 4「ベスレム病院の入院患者、エライザ・V。ヒステリーを併発しているマニア」ウェルカム図書館所蔵の書物より。

（鈴木　晃仁）